

# 平成29年度外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者養成研修 推薦名簿

(都道府県市等名)

コース	推薦順位	氏名	フリガナ	年齢 (※注1)	性別	所属				所属機関種別 (※注3)	学校種 (※注4)	電話番号 (※注5)	班別演習1 希望班 (※注6)	日本語指導者 用コースのプ ログラム選択 (※注7)	経験年数 (※注8)	現在の担当 指導教科 (※注9)	教科指導プログラム 希望教科 (※注10)		実践先進校視察 希望コース (※注11)		備考	
						名称	職名 (※注2)	郵便番号	住所								第1希望	第2希望	第1希望	第2希望		
管理者用 コース	1													(1)								
	2													(2)								
日本語 指導者 用 コース	1																					
	2																					
記入例	管理者用 コース	1	□ □ □ □	□ □ □ □	□	□	□ □ 市立 □ □ 中学校	教頭	000-0000	00市00 0-00-00	中学校	/	00-00-1234	集住	/	/	/	/	/	/	/	
		2	□ □ □ □	□ □ □ □	□	□	□ □ □ 教育センター □ □ 課	□ □ 主事	000-0000	00市00 0-00-00	教育委員会	/	00-00-4321	分散	/	/	/	/	/	/	/	
	日本語 指導者 用 コース	1	□ □ □ □	□ □ □ □	□	□	□ □ □ 教育委員会 □ □ 課	指導主事	000-0000	00市00 0-00-00	教育委員会	小	00-00-1324	集住	①	3年				A	C	
		2	□ □ □ □	□ □ □ □	□	□	□ □ □ 大学大学院	学生	000-0000	00市00 0-00-00	大学院	中	00-00-1324		③	1年	社会	社会	国語	B	A	

担当者氏名		電話番号	
担当者フリガナ		担当者住所	〒
担当者所属		e-mailアドレス	

「集住」地域と「分散」地域について（参考）

※班別演習の際、同じ状況の方同士で協議を深めていただくための班分けの目安としますので、便宜上、以下の基準を参考とし、記入してください。

＜集住地域＞

校長、教頭、教諭等の場合：自分の学校に外国人児童生徒が10名以上在籍する。

指導主事の場合：自分の担当地域に外国人児童生徒が10名以上在籍する学校・地域が複数あり、偏在している。

＜分散地域＞

校長、教頭、教諭等の場合：自分の学校に外国人児童生徒が数名在籍する。

指導主事の場合：自分の担当地域に外国人児童生徒が在籍する学校が複数あるが、1校当たりの在籍数は数名である。あるいは外国人児童生徒が在籍する学校も数校（在籍数も少ない）で、偏在している。

注1) 年齢は、平成29年4月1日現在で記入してください。

注2) 教職大学院の学生に当たっては「職名」欄には、「学生」と記入してください。

注3) 教職大学院の学生に当たっては「所属機関種別」欄には、「大学院」と記入してください。

注4) 「学校種」欄には、「日本語指導者用コース」の方のみ記入してください。小学校教員は「小」、中学校及び中等教育学校(前期課程)の教員は「中」、高等学校及び中等教育学校(後期課程)の教員は「高」と記入してください。指導主事等は希望する学校種を記入してください。

注5) 「電話番号」欄には、事前提出課題の確認の際などに、当機構が受講者と直接連絡を取ることができる電話番号を記入してください。

注6) 「班別演習1」では、職名別(指導主事、校長・副校長・教頭、教諭)にそれぞれ集住地域と分散地域に分かれて、地域における取組について演習を行います。「班別演習1希望班」欄には、班を編制する際の参考とするため、「集住地域」を希望する場合は「集住」、「分散地域」を希望する場合は「分散」と記入してください。ただし、教職大学院の学生については、記入は不要とする。(右枠参照)

注7) 「日本語指導者用コースのプログラム選択」欄には、「初期指導プログラム」を希望する場合には①を、「中期・後期指導プログラム」を希望する場合には②、「教科指導実践プログラム」を希望する場合には③を記入してください。なお、②「中期・後期指導プログラム」については、一定の指導経験を有する方の参加が望ましい。

注8) 「経験年数」欄には、「日本語指導者用コース」の方は日本語指導年数を記入してください。

「管理者用コース」の方は、以下のうち、(1)又は(2)に該当する年数を記入してください。[(1)(2)の両方記載することも可]

(1)学校の管理職として日本語指導が必要な児童生徒等に関わった在職年数。

(2)教育委員会等で日本語指導が必要な児童生徒に関する業務を担当した年数。

注9) 小学校教員以外の方は、現在担当している指導教科を記入してください。

注10) 「教科指導実践プログラム」の班別演習では、教科毎に分かれて指導案を作成します。「教科指導プログラム希望教科」欄には、班を編制する際の参考とするため、「国語」「社会(地理・歴史、公民を含む)」「算数・数学」「理科」のうち希望する教科名を選択し記入してください。第一希望に沿えない場合がありますので、必ず第二希望の教科も記入してください。

注11) 「実践先進校視察」では3つのコースに分かれて、フィールドワークを行います。「実践先進校視察」欄には、班を編制する際の参考とするため、「A(四日市立笹川東小学校)」「B(三重県立飯野高等学校)」「C(初期適応支援教室『いっぽ』)」のうち希望するコース名を選択し記入してください。第一希望に沿えない場合がありますので、必ず第二希望のコースも記入してください。

※この推薦名簿は、本研修への受講推薦に際し、都道府県市教育委員会が使用するものであり、それ以外での目的で使用しません。